退任のご挨拶

思う存分活動してきたESD研究所（ESD研究センター）の15年間に感謝

阿部　治

私が立教大学に赴任したのは2002年、まさにヨハネスブルグサミット（国連持続可能な開発に関する世界首脳会議）が開催される年でした。“ヨハネスブルグサミット提言フォーラム”のメンバーたちと共に提案した「持続可能な開発のための教育の10年（ESDの10年）」は、サミットにおいては日本政府との共同提案となり、満場一致で採択された成果文書に記載され、2005年からスタートすることになりました。

私が仲間と立ち上げ、今も代表理事を務めている“持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）”との共催で、「ESDの10年キックオフ会議」（2005年1月）を立教大学太刀川記念館で開催し、未来への夢を託して紙飛行機を飛ばしたことが、昨日のことのように思い出されます。

2007年に日本初のESDの研究機関として立ち上げた“ESD研究センター”、その後継組織である“ESD研究所”では、企業におけるESDに関する研究や、自治体におけるESDに根差した地域創生の推進支援、そして「全国ESD・SDGs自治体会議」の開催など、思い出深い多くのプロジェクトを展開することができました。研究者のみならず企業や行政・NPOなど実に多くの方々や組織にお世話になりました。ご支援ご協力いただいた皆様に心からお礼申し上げます。

今年は国連人間環境会議（ストックホルム会議）から50年、国連環境開発会議（地球サミット）から30年の節目の年。現在のSDGsや脱炭素への機運の高まりを3度目のブームに終わらせることはできません。私は今回が私たち人類に残された最後の生き残りのチャンス、もう後はないと考えています。このような世界の大きなターニングポイントに、私はESD研究所を退任することにはなりますが、後任の上田信所長には存分にご活躍いただき、立教大学内外でサスティナビリティに取り組む方々や地域の方々とともに持続可能な地域づくりと人づくりに取り組んでいただければと願っております。私も引き続き微力ながら、運営委員として、ともに研究所を盛り立てていきたいと思います。どうもありがとうございました。

阿部先生の退任に寄せて

ESD研究所につながる方々に寄せていただいた、「阿部先生との思い出」や「素顔の阿部先生」に関するメッセージと写真をご紹介します。

立教大学大学院時代、環境教育からESDに転換する貴重な時期をともに伴走させて頂いたこと、心より感謝いたします。今、「教育による社会変革」の意志を引き継いでいくことの責任の重さを痛感しています。また、〈現場〉でお会いしましょう！

これからは、仕事だけではなく、ご家族も大切になさってくださいね。（麻布大学　小玉敏也）

埼玉大学時代からの教え子として、ゼミ合宿やESDに関する調査などを通して、まるで子どものように（笑）誰よりも自然を楽しむお姿を目の当たりにしてきました。

阿部先生のESDへの原動力は自然を愛する強いお気持ち！今後は、のんびり自然を愛でる時間が取れますように！（鶴見大学短期大学部　増田直広）

阿部先生の素顔と言えば2003年の春、ESD-J関係者数人でイラク攻撃反対デモに参加した時のことを思い出します。人々の行方を遮る警官隊に向かって「平和について話し合おうじゃないか」と涙ながらに訴えかけておられました。こんな純粋さと熱意が、環境教育実践者ばかりでなく、行政官や国会議員など、様々な人を動かす力になっていたのだなぁと思います。（立教大学ESD研究所　村上千里）

阿部先生と同行した現地調査の中でも、やはり思い出深いのは台湾です。車や新幹線での移動中も日本から持ってきた仕事をされていました。それでも短い滞在時間の中で台湾の環境教育関係者と交流し、熱く語り、精力的に現場を見に行く姿に感銘を受けました。ただ、現場視察後の食事は、ご満足していただくための調査が実は大変でした（笑）（高崎商科大学　萩原豪）